

横芝の碑

(その一〇四)

昔の信仰思想を伝えるか？

横芝町と光町に建つ庚申様

「広報で、横芝の碑」を読んでいるが、光町に建っている庚申様は、囲りに小さな庚申様を並べている。横芝の庚申様と同じものなのであろうか？」そんなご連絡をいただいでから半年ぐらいになります。まだその時には、横芝町の庚申様のご紹介も残っていましたし、他の方からご連絡をいただいた。町外の横芝に関係深い碑の取材も済んでいませんでしたので、ついそのままになっていました。ところが、最近、光町からという高校生の訪問を受けて同じような質問をされました。丁度、前記の取材等も終わった後であり、自分でも、横芝町の庚申様と光町の庚申様の比較も面白いと考えていた時でした。

昔、栗山の渡し場があったという、横芝堰から光町の田んぼ道を越え、左折して東陽病院の横を通ると県道に出ます。この道には、かねてご紹介したことのある、北清水や栗山の庚申様と同体形の宝



▲庚申様のまわりには、たくさんの奉納された石が置かれている。

剛尊が邪鬼を踏まえ、台座には三狼が控えているという、横芝町でも多く見かける姿で、建てた時代も、正徳、寛政、というころで別に特長は見当たりにません。近くの古老の方々を訪ね、いろいろとお聞きしましたが、その内容を要約しますと「昔は、この辺りは沼地で、各村々の入口に祭る悪霊疫病退散の神祠を建てる台地が、どうしても崩れてくるので、村人の総てが、食を減らしてもと、土止め

の石を奉納した」と言うことです。その話をお聞きしてから、光町や野柴町辺りまで訪ねてみましたが、庚申石の奉納された庚申様は見当たりませんでした。この付近の村人の生活には、八日市場から旭方面、そして、宮川から栗山、北清水方面に通ずるこの街道を、極めて大事に考えていたことが推察され、宝永年間(富士山噴火の前後)に庚申様を継続して建てた、宮川、栗山、北清水の人々が、共通してこの街道に注いだ信仰と生活の結びつきが、改めて想い起こされてきます。

昔、交通の便も悪く、医療や警察制度もまったく整わなかったころ、しかも、村と村、部落と部落が非常に離れていた人々は、どうしても、自分は自分で守る以外になかったのです。道祖神等もそうですが、庚申様も、いつか外部からの敵を食い止める、人敵だけに限らず、疫病悪霊の類まで退散させる、人間以上の力を持つ支えとして頼られてきたのです。そして、外來の要衝となる道路の畔や辻、境界は、防衛の場所であり、祭祀の場所でもあったのです。そうして、その共通する生活を持つ村々は、やはり、同じ神を中心にして結束を固めてきたのです。それが、宮川、栗山、北清水と、ここでご紹介申し上げている光町の二か所の庚申様それぞれに現れているのだと思います。

写真は、光町に建っている、庚申と刻んだ奉納の石に囲まれた庚申様です。奉納の石は二〇センチメートルから四〇センチメートルまでさまざまです。うす暗く繁った樹木の後は、たんぼが広がっていて、沼であった昔が想像できます。この前が街道で、ここから宮川の庚申様のすぐ傍までは、一部右折や左折はありますが、一本道になっていて、宮川の庚申様の近くで、元の栗山の渡し方面と、橋場の舟付場方面に分かれ、共に横芝に通ずる旧街道に接続していったのです。今は、病院が建ったり、基盤整備が行われたり、東陽病院前から橋場に抜ける山林と、たんぼ路の一部にわずかな名残りを止めているだけです。

なお、案内図は省略させていただきます。



町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿